

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2022 年 4 月

「神のみかたちを回復する」「死人はいつ復活するか（Ⅱ）」「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ」

「黒糖くるみ」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「死人はいつ復活するか(Ⅱ)」

4

聖書の教え

朝のマナ

神のみかたちを回復する

7

Restoring the Image of God

現代の真理

「黙示録 18 章の御使と
1888 年のメッセージ(Ⅲ)」

38

Good Way Series- 正道 -

力を得るための食事

「黒糖くるみ」

44

レシピ

お話コーナー

「大いなる準備(Ⅱ)」

46

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2022 年 3 月 13 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page; Sermon View on page
48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

強い目的、及びそれを得るための手段

日の暮れる前に、町の門に着こうと急いでいる遅れた旅人は、途中にあるものに心を惹かれて、わき道へそれることはできなかった。彼は門に入ることしか考えていなかった。これと同じ強い目的が、クリスチャン生活には要求されるとイエスは言われた。わたしはあなたがたに、品性の栄光を示した。これが、わたしの国の真の栄光である。…それは、あなたがたの最高の希望と努力とに値するものである。…何の戦いもせず、勝利を得なくてもよいなどと考えるはならない。わたしは、あなたがたに、わたしの霊的王国に入るために戦い、苦心せよと命じるのである。

クリスチャン生涯は戦いであり、進軍である。しかし、勝利は人間の力では得られない。戦場は心の中にある。わたしたちの戦い、すなわち、人間の戦わなければならない最も激しい戦いは、自己を神の意志に従わせること、心を愛の主権に屈服させることである。血肉による古い性質は、神の国を継ぐことができない。生まれつきの性癖、古い習慣は捨てなければならない。

霊的王国に入ろうと決心する者は、自分の生まれ変わらない性質のあらゆる力と欲望とが、暗黒の王国の勢力に支援されて、自分に手向かってくるのに気づくであろう。利己心と誇りとは、それが罪であることを指摘するすべてのものに対して反抗する。…わたしたちに勝利を与えることができるのは、神だけである。…

熱心な多くの祈りと、一步一步自らを低くすることなしには、勝利は得られない。わたしたちの意志は、神の力と協力するように強いるべきものではなくて、それは自発的に捧げられなければならない。たとえ、100 倍もの強さをもって、神の霊の力をあなたに強制的に及ぼすことができるとしても、それは、あなたをクリスチャン、すなわち天にふさわしい民とすることはできないであろう。…意志が、神の意志の側に置かれなければならない。…

多くの人は、キリストのうるわしさと天の栄光に引きつけられながらも、それらを自分のものとするのできる唯一の条件を、回避するのである。…彼らは罪の束縛から解放されたいと切望…する。…彼らは良いものを望み、それを得ようとしていくらかの努力はする。しかし、それを選ばない。彼らはすべてのものを犠牲にしても、それを得ようという確固たる目的を持っていない。

勝利を得ようとする者にとって、唯一の勝つ見込みは、自分の意志を神の意志と一致させ、毎日、毎時間、神と協力して働くことにある。…(祝福の山 176-179)

第27課 死人はいつ復活するか(Ⅱ)

全般的な第一の復活

イエスは、ご自分を信じ、およびそのみこころを行う人々を復活させると約束されました。「わたしの父のみこころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう」(ヨハネ 6:40)。

「…わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる」(ヨハネ 11:25)。

「このことを驚くには及ばない。墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き、善をおこなった人々は、生命を受けるためによみがえり、悪をおこなった人々は、さばきを受けるためによみがえって、それぞれ出てくる時が来るであろう」(ヨハネ 5:28, 29)。

最初の全体的な復活は、聖徒や義人たちの復活です。これは、「最後の日」に起こります。その最後の日とは、イエスが天の雲に乗って現われる日です。パウロはその日について次のように述べました。

「すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあつて死んだ人々が、まず最初によみがえり、」(テサロニケ第一 4:16)。

「ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは変えられるのである。なぜなら、この朽ちるものは必ず朽ちないものを着、この死ぬものは必ず死なないものを着ることになるからである。この朽ちるものが朽ちないものを着、この死ぬものが死なないものを着るとき、聖書に書いてある言葉が成就するのである」(コリント第一 15:51-54)。

「(それ以外の死人は、千年の期間が終るまで生きかえらなかった。) これが

第一の復活である。この第一の復活にあずかる者は、さいわいな者であり、また聖なる者である。この人たちに対しては、第二の死はなんの力もない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する」(黙示録 20:5,6)。

第二の全般的な復活

悪人たちは、最初の全般的な復活においては復活しません。なぜなら、神のみ言葉は、最初の復活においてよみがえる人々は祝福された人であり、また第二の死の力は彼らに及ばないとあるからです。悪人たちは祝福を受けることはできません。また、彼らは第二の死において生き抜くことはできません。第二の全般的な復活は、全ての悪人の復活であり、その復活は千年の期間の最後に生じます。聖書は、次のように明確に述べています。「それ以外の死人は、千年の期間が終るまで生きかえらなかつた」(黙示録 20:5)。

イエスが義人のために二度目に来臨されるとき、悪人たちは、来臨の輝きによって滅びます。

「その時になると、不法の者が現れる。この者を、主イエスは口の息をもって殺し、来臨の輝きによって滅ぼすであろう」(テサロニケ 2:8 第二)。

「それは、主イエスが炎の中で力ある天使たちを率いて天から現れる時に実現する。その時、主は神を認めない者たちや、わたしたちの主イエスの福音に聞き従わない者たちに報復し、そして、彼らは主のみ顔とその力の栄光から退けられて、永遠の滅びに至る刑罰を受けるであろう。その日に、イエスは下ってこられ、聖徒たちの中であがめられ、すべて信じる者たちの間で驚嘆されるであろう——わたしたちのこのあかしは、あなたがたによって信じられているのである」(テサロニケ第二 1:7-10)。

次の千年の間、悪人たちは地のちりの中において死んだ状態にあります。その千年期があり、その後、彼らは刑罰を受けるために復活するのです。

「わたしは地を見たが、それは形がなく、またむなしかった。天をあおいだが、そこには光がなかった。わたしは山を見たが、みな震え、もろもろの丘は動いていた。わたしは見たが、人はひとりもおらず、空の鳥はみな飛び去っていた。わたしは見たが、豊かな地は荒地となり、そのすべての町は、主の前に、その激しい怒りの前に、破壊されていた」(エレミヤ 4:23-26)。

「その日、主に殺される人々は、地のこの果から、かの果に及ぶ。彼らは悲しまれず、集められず、また葬られずに、地のおもてに糞土となる」(エレミヤ 25:33)。

悪人たちは、永遠の滅びという自分たちの報いを受けるために墓から出てきます。預言者は次のように記しました。

「このいのちの書に名がしるされていない者はみな、火の池に投げ込まれた」(黙示録 20:15)。

親愛なる友人の皆さん、今日はあなたの名前が命の書に書かれるようになる機会の時です。その命の書に、永遠にその名前が書かれるよう奮闘しましょう。皆さんが忠実な人となるのを神様が助けて下さり、皆さんもまた、今は希望のうちに休んでいる愛する義人たちと会うことができるようにしてくださいますように。

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



4 月

自由にする神の律法

4月1日

愛の祝福

「おのが道を全くして、主のおきてに歩む者はさいわいです。主のもろもろのあかしを守り心をつくして主を尋ね求め」(詩篇 119:1,2)

十誡はその心が愛に満たされ、無限の知恵があり、決して間違いを犯すことのない天の神から出ている。このお方は過ちを犯すにはあまりに賢く、あまりにも良いお方なので、ご自分の要求に従ういかなる者にも害を及ぼすことはできない。(わたしたちの高い召し 262)

多くの宗教教師たちは、キリストはご自分の死によって律法を廃された、それゆえに人はその要求から解放されている、と主張する。なかには、律法を重苦しいくびきであると言い、律法の束縛とは対照的に、福音の下において自由が享受できると主張する人々もいる。

しかし、預言者や使徒たちは、神の聖なる律法をそのようには見なさなかった。「わたしはあなたのさとしを求めたので、自由に歩むことができます」(詩篇 119:45)。キリストの死後に書いた使徒ヤコブは、十誡を「尊い律法」「完全な自由の律法」と言っている(ヤコブ 2:8,1:25)。そして、十字架から、半世紀の後に、ヨハネは、「いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、神の律法を行なう者」はさいわいであると言明している(黙示録 22:14 英語訳)。

キリストがその死によって天父の律法を廃したという主張には、なんの根拠もない。もしも律法を変えたり、廃止したりすることができるのであれば、人間を罪の刑罰から救うためにキリストが死なれる必要はなかった。キリストの死は、律法を廃止するどころか、それが不変のものだということを証明しているのである。神のみ子は、「律法を大いなるものとし、かつ光栄あるものとする」ために来られた(イザヤ書 42:21 英語訳)。「わたしが律法や預言者を廃するためにきた、と思ってはならない。」「天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはな」と彼は言われた(マタイ 5:17,18)。また、ご自身について、「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」と宣言しておられる(詩篇 40:8)。

神の律法は、その性質そのものから考えても、不変のものである。それは、その制定者の意志と品性の啓示である。神は愛である。そして、神の律法は愛である。(各時代の大争闘下巻 193,194)

律法は魂を改心させる

「主のおきては完全であって、魂を生きかえらせ（改心させ）、主のあかしは確かであって、無学な者を賢くする。」（詩篇 19:7）

詩篇記者は「主のおきては完全であって」（詩篇 19:7）と言う。エホバの律法はその単純さ、すべてを含むこと、その完全さにおいてなんと素晴らしいものであろうか！それは非常に簡潔なので、わたしたちは一つ一つの教訓をたやすく記憶し、しかも神の御旨全体を表現するほど遠大で、外面的な行動だけでなく、心の思想と意図、願望と感情を認識することができる。人間の法律はこれを行うことができない。それらは外に現われた行動だけに対処できる。人は違反者でありながらその行為を人の目から隠すことはできるかもしれない。彼は犯罪者―盗人、殺人者、姦夫―かもしれないが、知られなければ法律は彼を有罪と宣告することはできない。神の律法は、嫉妬、妬み、憎しみ、深い恨み、復讐心、情欲、野望、すなわち魂にわき起こるが、意志がなかったのではなく機会がなかったために、外面的な行為にあらわれなかったことは標準を満たしていないと記録する。そしてこれらの罪深い感情は「神はすべてのわざ、ならびにすべての隠れた事を善悪ともにさばかれる」その日に考慮される（伝道の書 12:14）。（セレクトッド・メッセージ 1 巻 217）

人間は、律法がなければ、神の純潔と神聖さ、あるいは自分自身の罪と汚れについて、正しい考えを持つことができない。罪についての真の自覚もなく、悔い改めの必要も感じない。自分たちが神の律法の違反者であるという失われた状態を悟らず、キリストの贖罪の血の必要を自覚しないのである。心の根本的な変化も生活の改変もなしに、救いの希望を受け入れる。（各時代の斗争闘下巻 196）

神は、父祖、ダビデ、預言者、使徒の時代にそうであられたように、今日も罪から救うのに力強い方である。神がご自分の民を彼ら自身の不法から救い出された聖なる歴史の中に記録された多くの事例により、今の時代のクリスチャンは、熱心に神の教えを受けるものとなり、裁きの厳密な調査に耐え得る品性を完成させるのに熱心になるべきである。（教会への証 4 巻 15）

4月3日

わたしたちの眼を明らかにする

「主のさとしは正しくて、心を喜ばせ、主の戒めはまじりなくて、眼を明らかにする。」(詩篇 19:8)

あなたは神の律法を研究するようにと招かれている。神への愛と人への愛の原則から生じている十誡をとって、あなたがそれらの要求に調和しているかどうかを見なさい。もしあなたがそれらのどの一つも破っていないなら、あなたは願うことを求めることができ、それはかなえられるであろう。なぜならあなたは神の恩寵のうちにいるからである。自分が正しいかそうでないかをあなたが決定することのできる唯一の方法は、律法の光と神の御霊によって自分の心を探ることによってである。鏡を見るとあなたの外見に欠陥があるのが明らかになるように、律法の道德上の鏡はあなたの品性の不完全さ、あなたの心の真の状態を明らかにする。自由の完全な律法を研究し、天にふさわしくなりたいと願っている者は神の助けが必要であることに気づき、祈りの中でしばしば神の御前にいるのが見出される。

真理によって聖化されている者だけが、永遠の命の相続人として受け入れられる。神がご自分の子らに持たせようとなさる聖化は、人々が自分の神聖さを自慢し、「聖であって、正しく、かつ善なるものである」(ローマ 7:12) 神の律法を拒むように導く品性ではない。聖書の聖化は神のご要求への絶対的な従順である。キリストはだれをも罪の汚染の中で救うために死なれたのではない。このお方は「律法の要求(義)が」ご自分に従う者の内に「満たされる」ようにと(ローマ 8:4)、「おのれの民をそのもろもろの罪から救う」(マタイ 1:21) ために来られたのである。十字架上における神の御子の死は、エホバの教訓の不変的な特性を示している。そうであればわたしたちは一つ一つの違反や不従順のために、どれほど悲しむべきであろうか。尊い救い主はわたしたちの不法のゆえに傷つけられた。聖化を主張しながら律法の拘束力のある義務を認めることを拒む者の心の中に、神の戒めへの恨み(敵意)がある。律法に言及するや否や彼らの心に憎しみが起こる。彼らは律法が廃されていると信じていると公言する。しかしもし律法が廃されているなら、わたしたちがキリストの審判の座の前で判決を受ける基準は何であろうか。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1888 年 2 月 10 日)

最初の一步

「なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。これは律法の要求が、肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされるためである。」(ローマ 8:2～4)

神の律法を守らなかったことに対する神への悔い改めは、クリスチャン生涯における最初の一步である。わたしたちの主イエス・キリストへの信仰は、過去の罪の許しのためにこのお方の血の功績を求めるが、その一方でわたしたちを神性にあずかる者とする。「神の律法に従わず、否、従い得ない」肉の心は霊的にされ、キリストと共に「わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。あなたのおきてはわたしの心のうちにあります」と叫ぶ(ローマ 8:7, 詩篇 40:8)。

キリストを信じていると言う者が多くいるが、彼らは信じているのであろうか。彼らは神の律法を喜ぶ霊的な思い、キリストの思いを持っているのであろうか。彼らは神の子であると主張するが、神のみ働きをしない。わたしたちはこの問題においてどのような失敗をする余裕もない。なぜならわたしたちの永遠の利益がかかっているからである。正しい信仰は信心深い働きの中で明らかにされ、生活全体を神の律法に調和させる。……わたしたちは海図を探り、自分たちが義人のために敷かれた大路におり、謙遜な従順の道を歩いていることを魂に確信するために奮起すべきではないだろうか。わたしたちは「足のなえている者が踏みはずすことなく、むしろいやされるように、あなたがたの足のために、まっすぐな道をつくりなさい」と警告されている(ヘブル 12:13)。わたしたちは他の人々にとって模範であり、もしわたしたちが誤った進路を追い求め、他の人々を正しい道から離れるよう導くなら、わたしたちには説明責任がある。

わたしたちは真の信仰を持つことの重要性を見ることができる。なぜならそれはそのクリスチャンの生活と行動の原動力だからである。しかし感覚は信仰ではなく、感情も信仰ではない。わたしたちは自分の働き、思想、感情を、み言葉によってテストしなければならない。真の信仰は神のみ声によって深く印象づけられ、それに従って行動する。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1887年11月24日)

4月5日

神の御言によって懲らしめを受け、 教えられる

「主よ、あなたによって懲らされる人、あなたのおきてを教えられる人はさいわいです。あなたはその人を災の日からのがれさせ……られます。」(詩篇 94:12,13)

この贖いの大いなる日に自分の罪を告白し、自分の不法を許していただくにあたって、神のあわれみと愛を認めるのはわたしたちの義務である。主がわたしたちをよこしまな道から救うために与えて下さる警告をこのお方に感謝しよう。わたしたちの生活に変化を表すことによってこのお方の慈しみを証しよう。主がご自分の道を歩んでいない者を警告しつつ譴責を送られた者が悔い改め、へりくだりと悔悟の念をもって告白するなら、主はたしかに彼らを再び好意をもって受け入れになる。もし彼らが神の戒めを守ることによってこのお方をあがめるなら、彼らはこのお方によって高められる。神は彼らに何が真の名誉、力強さ、勝利を構成するのをお教える。主のみ言葉を軽蔑する者、すなわち悪を譴責し義を奨励する神の託宣を持っていながら、自分自身の道を歩み続け、自己高揚の願いにふけて、自分たちに信頼している人々を誤った道に導く人々は、神からまったく捨てられないとしても、自分自身にうんざりする。

神はご自分の民の魂を救う希望をもって彼らを懲らしめられる。……自己を厳密に吟味しよう。自分は他の人々と同じようにしているのだから、道から遠くはずれるはずはないと言って、一般人という衣の下に自分を隠そうとしてはならない。しかし、あなたは今日生きている多くの背教者がしているようにすることができる。ある者は今ですらこの立場に踏み込もうとしている。しかしその光景は喜ばしいものであろうか。もし他の人の経験をわたしたちの前において、主の道に反した道をわたしたちが歩んで罰を受けるなら、わたしたちは自分以外のだれを責めることができる。

ああ、神の民がこれらの事柄の重要性を深く認識することができると良いのに! ああ、従順と聖潔の狭い道から離れるすべての者があるがままたそれを見ることができるとよいのに! ああ、男女がかつてしたことがないほど主を求めることができるというのに! (世界総会冊子 1900 年 7 月 1 日)

真の繁栄への鍵

「悪しき者のはかりごとに歩まず、罪びとの道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。このような人は主のおきてをよろこび、昼も夜もそのおきてを思う。このような人は流れのほとりに植えられた木の時が来ると実を結び、その葉もしばまないように、そのなすところは皆栄える。」(詩篇 1:1～3)

人々に神の戒めを軽んじるように教えるものは、不従順の種をまき、不従順を刈り入れる。神の律法によって課せられている拘束を全部取り去るならば、人間の法律もまもなく無視されるであろう。神は不正な慣習、貪欲、虚偽、詐取を禁じておられるので、人々は自分たちが世俗的に繁栄する道の障害として、神の戒めをやすやすとふみにじる。しかし、これらの戒めを追い払った結果は、彼らの予期しなかったものとなるであろう。もし法律に拘束されないならば、違反を恐れる必要があろうか。財産はもはや安全ではなくなる。人々は力づくで隣人の持ち物を手に入れ、最も強い者が最も富める者になる。生命そのものが尊重されなくなる。結婚の誓約は、もはや家族を守る神聖なとりでの用をなさなくなる。力を持っている者が、もし望むなら、隣人の妻を腕づくで取るようになる。第五条は第四条とともに廃される。子供たちは、親の生命を取ることで自分の墮落した心の願いを達成できるならば、そうすることを恐れなくなる。文明社会は強奪者、暗殺者の大群と化し、平和、休息、幸福は地上から消滅してしまう。(各時代の斗争闘下巻 346,347)

すべての繁栄は神のご要求への服従にかかっている。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 5月20日)

十誡の「せよ」、「してはならない」というのは、もしわたしたちが宇宙を統治している律法に従順を表すなら、わたしたちに保証された十の約束である。

二枚の石板の上の聖なる律法の中に神の指で刻まれていない道徳上の教訓は、聖書のどこにもない。……わたしたちの天父はつねに、わたしたちの命の第一として、その喜びと繁栄として、その光と能力として、そしてわたしたちのとこしえの分として、心に大切にされるべきである。(神のむすこ娘たち 56)

4月7日

神の律法に服することにある平安

「あなたのおきてを愛する者には大いなる平安があり、何ものも彼らをつまずかすことはできません。」(詩篇 119:165)

真理の率直さとはっきりとした証のゆえにたやすくつまずく者は、神の真理を傷つけ、二心のまま、熱くもなく冷たくもなく、教会に重荷を与えながら伝え、ついに神はそのみ口から彼らを吐き出される。(原稿別紙 15,329)

律法への服従はわたしたちの救いだけでなく、わたしたちが交わっているすべての人の幸福にとって必要不可欠である。……しかし有限な人間は、創造主ご自身が人間の必要に合わせてくださったこの聖なる公正な良い律法、自由の律法を、だれも負うことのできないくびき、奴隷のくびきとして人々に示す。しかし律法を耐え難いものと見なすのは罪人であり、その教訓の中に麗しさを見ることができないのは違反者である。なぜなら肉の思いは「神の律法に従わず、否、従い得ないのである」(ローマ 8:7)。

「律法によっては、罪の自覚が生じるのみである」(ローマ 3:20)。なぜなら「罪は不法」だからである(ヨハネ第一 3:4)。人に罪を悟らせるのは律法によってであり、彼らは救い主の必要に気づく前に、自分が神の怒りにさらされた罪人であると感じなければならない。サタンは、罪の嘆かわしい性質を人が低く評価するように絶えず働いている。そして神の律法を足の下に踏みじめる者は大欺瞞者の働きをしているのである。なぜなら彼らは、罪を明らかにし、違反者の良心にそれを悟らせる唯一の規則を拒んでいるからである。

罪深いにも関わらず、往々にして軽く見過ごされるが、実のところ、品性の土台でありテストであるこれらの秘かな目的にまで、神の律法は及ぶ。神の律法は、もし罪人が自分の道徳上の品性について正しい知識を持ちたければ、覗き込むための鏡である。そして彼が義の大いなる標準によって自分自身が有罪と判決されたのを見るとき、彼の次の行動は自分の罪を悔い改め、キリストによる許しを求めることである。これをするのに失敗するなら、多くの者は自分の欠点を示す鏡を壊そうとし、彼らの人生と品性における汚れを指摘する律法を無効にしようとする。(レクテッド・メッセージ 1 巻 218,219)

川のように平安

「どうか、あなたはわたしの戒めに聞き従うように。そうすれば、あなたの平安は川のように、あなたの義は海の波のようになり、」（イザヤ 48:18）

あなたはキリストのくびきを負うのであろうか。これをするならあなたの平安は川のように、あなたの義は海の波のようになる。（原稿川ノス 21,279）

禁じられた喜びと罪深い放縦に喜びを求めているあなたは、来なさい。キリストから散らされているあなたは、カルバリーの十字架を見上げなさい。あなたが賢くなる機会を得、命の泉と真の幸福を求める間、あなたのために苦しんでいる王なる犠牲を見つめなさい。あなたがこの世で会わなければならないささいな不便と少々を試練に文句を言い、つぶやくあなたは、来て、あなたの信仰の創始者であり完成者であるイエスを見上げなさい。このお方は王座、最高指揮権を捨て、ご自身の神性を脇へおき、人性をまとわれた。このお方はわたしたちのために拒まれ軽蔑された。ご自分の貧しさによってわたしたちが富む者となるために、このお方は貧しくなられた。キリストの苦しみを信仰の目で見つめているあなたは、自分の試練、悲哀の話をすることができるのであろうか。ご自分をののしっている者、ご自分を殺そうとしている者のためにキリストの青ざめた震える唇から出た「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」という祈りを覚えていながら、あなたは心の中に復讐心を抱くことができるであろうか（ルカ 23:34）。

自分の心の中に場所を求める自尊心と虚栄を抑え、悔い改めと信仰によってキリストとの親しく聖なる交わりの中に自分自身を連れて行くのは、わたしたちの前にある働きである。神の御子がわたしたちを墮落と罪の奴隷からご自身の右側にある座に引き上げるために甘受されたへりくだりの深さに、わたしたちはしり込みしてはならない。わたしたちは自己を否定し、自尊心と絶え間なく戦わなければならない。イエスのうちに自己を隠し、自分の品性と会話にこのお方が現れるようにしよう。わたしたちの罪が刺し通し、わたしたちの悲しみが重荷を負わせているお方を絶えず見上げる間、わたしたちはこのお方になるための力を得る。わたしたちの生活やふるまいは、わたしたちが自分の贖い主とわたしたちのためにあれほどの犠牲を払って働かれた救いをどれほど高く評価しているかを証する。そしてわたしたちが自ら望んで幸福なとりことして自分をイエスに結びつけている間は、わたしたちの平安は川のようにである。（サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1887年3月17日）

4月9日

キリストとその律法を瞑想する

「この律法の書をあなたの口から離すことなく、昼も夜もそれを思い、そのうちにするされていることを、ことごとく守って行わなければならない。そうするならば、あなたの道は栄え、あなたは勝利を得るであろう。」(ヨシュア 1:8)

現代ほどわたしたちが義の道を注意深く歩み、もっと熱心に祈る必要のあるときはない。キリストが地上におられたときに存在したのと同じ偏見の精神が、今神の戒めに対して存在する。であるから、もしわたしたちがサタンの敵意を起こさせることなく戒めを守ることができると考えたら、間違いを犯す。しかしわたしたちは決して贖い主が苦しめられた百分の一も苦しむことはない。

わたしたちはキリストがわたしたちのためにしてくださった犠牲を瞑想すべきである。このお方は、ご自分の誉れと栄光と大権を後にして、わたしたちの地球に來られ、悲しみの人となり、病を知られた。御父が天からお送りになったお方を、世が受け入れず信じなかったとは驚くべきことに思われる。このお方は救うためにこられたその人々に向かって、「あなたがたは、命を得るためにわたしのものにこようとしなさい」と仰せになった(ヨハネ 5:40)。このお方は町々に入り、ほとんどの者がご自分の使命に関心を示さないことに気づいたとき、どれほど深く悲しまれたことであろうか。どの魂もその御目には尊かった。しかし、一時的で感覚的な事柄が人々の注意を引き、贖い主の功績に対して彼らの目を盲目にした。わたしたちの救い主が会われた多くの失望を考えると、このお方が悲しみの人であったことを不思議には思わない。わたしたちが、自分たちの愛する者に真理をもたらすために熱心に努力しても彼らが聞こうとしないとき、どれほど悲しく感じるであろうか。キリストはその特質がわたしたちよりももっと高く、もっと聖なるお方であるので、わたしたち以上にこの悲しみを鋭く感じられた。救い主が耐えられたことを考えると、わたしたちは自分の働きで失望することができるであろうか。わたしたちには人々の前にもたらすべき尊い真理があるので、命があるかぎりわたしたちの声をあげ、神の律法を犯すことは罪であることを宣布しなければならない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1889.5.27)

くびきから希望へ

「自由を得させるために、キリストはわたしたちを解放して下さったのである。だから、堅く立って、二度と奴隷のくびきにつながれてはならない。」(ガラテヤ 5:1)

この世の標準に到達しようと努めるために思いわずらいをし、心を痛めている人が多い。彼らは現世的な働きを選び、その悩みを負い、社会の習慣を取り入れて、そのため品性は傷つき、人生に疲れ、次から次におこる心配で生命力が消耗してゆく。わたしたちの主は、こうした奴隷的なくびきを捨てるように希望されている。「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」と言われて、主のくびきを負うように招いておられる(マタイ 11:30)。(ミストリー・オブ・ヒーリング 465)

神の律法が無視されるとき、家族と社会に最大の不幸が結果として生ずる。より良い事柄への唯一の希望は、エホバの教訓を忠実に固守することの中に見出される。不信心なフランスはかつて神の権威を拒もうと試みたがなんという恐ろしい光景が後に続いたことであろうか! 人々は神の律法を奴隷のくびきとして無視し、自分たちの自慢した自由の中で、これ以上ない暴君の支配の下に自分たちを置いたのである。無政府状態と流血がその恐ろしい日々を支配した。そのとき、秩序と統治の基礎をむしろ確かな方法は、神の律法を無効にすることであることを世に証明した。(神のむすこ娘たち 54)

キリストに従う者はだれでも神の戒めを守る。これはわたしにとって都合が良いであろうかという質問が起きる。しかし、律法があなたの都合を妨げるので、神はご自分の律法を守るようにとあなたに要求なさらないと都合よく思い込むなら、あなたは悲しい間違いを犯す。あなたの救いの将の代わりに別の指導者があなたを指揮している。イエスは最も厳しい誘惑に苦しみ、耐え、ついには、神の律法は不変であり、一点一画もすたることはないことを人類家族一人ひとりに明示するためにカルバリーの十字架上でご自分の命をお与えになった。十字架はその不変性の記念碑であり、このようにしてそれは全世界の前に、天使たちの前に、全人類の前に、律法は永遠の支配を及ぼすのを止めることはできないことを明示している。それは神のみ座を支えており、またそれはその統治の規則である。(バイブル・エコー 1894年6月11日)

4月11日

本物の自由を見出す

「かつ、被造物自身にも、滅びのなわめから解放されて、神の子たちの栄光の自由に入る望みが残されているからである。」（ローマ 8:21）

神の愛の表れには、議論、討論、雄弁の現れに勝る説得力がある。キリストの愛は、自己否定、自己犠牲、死に表されたように、このお方が人類の罪の下に身を低くされたように、同情心に触れ、頑な心を溶かす。潔白で純潔な神の御子が罪のために苦しまれた事実、罪のないお方が罪ある者の刑罰を負われた事実、義なるお方が不義なる者の罰を耐えられた事実は心を砕く。そして、イエスが上げられるとき、罪の自覚が魂を突き刺す。キリストという無限の賜物を与えるように駆りたてた愛は、悔い改めている者に強く迫り、神にすべてを捧げさせる。

.....

キリストを受け入れる者は、自分のためのこのお方のへりくだり、苦しみ、死のうちにあらわされたこのお方の愛の現れによって溶かされ、征服される。彼らはこのお方を自分の身代わり、保証人として見つめ、またこのお方が、神の正義と調和し、かつその律法の誉れを立証する計画を通して、彼らの完全な救いを成し遂げて下さることを自ら誓っておられるものとして見つめる。しかしイエスのへりくだりを見る時強い感情に揺り動かされ、自分がこのお方のへりくだりと苦しみを分かち合う者にならなければならないことを理解するとき、このお方のみ足の跡に従うのをしり込みする者がいる。イエスが無条件に自己を明け渡すようにとお求めになるとき、このお方の統治に従うように、そして謙遜な服従と絶対的な信頼のうちに歩くことをお求めになるとき、彼らの性質は反逆する。高慢な心は「いいえ、わたしたちは独立したい」と言う。しかしこれはあなたがたが持つようにイエスが望んでおられるまさにそのことである。それは、このお方がカルバリーの十字架上で死なれたその罪の奴隷状態から、あなたが自由になることができるということである。このお方は、あなたがご自分を信じる信仰によって本当に自由になり、神の子の栄誉に満ちた自由のうちに堅く立つことができるために死なれた。

あなたの贖い主の苦しみを熟考しなさい。そうすればあなたは罪の上に抑制が置かれるのを見出す。犯された罪の一つ一つは、キリストの屈辱の再現であり、このお方の傷口を再び開くことである。（パイプル・エコー 26,1894 年）

何が真の独立か

「主の霊のあるところには、自由がある。」(コリント第二 3:17)

強情はしばしば独立と混同されるけれども、独立は強情ではない。G 兄弟が意見をねりあげ、かなりの確信とそれなりの注目を引いて家庭や教会内で述べる時、あたかも自分の生み出すすべての議論によって自分が正しいかのように見える傾向がある。彼は危険のうちに、すなわち自分の執着心によって自分の目を閉じ、その良心に背く大きな危険のうちにいる。なぜなら彼に敵の誘惑が強く臨むからである。もし彼が納得しようと思えば、彼を納得させるのに十分な光と証拠を目の前にしても、意見についての彼の自尊心は、譲るのが難しい。彼は、もし自分が間違っていることを認めなければならないなら、それは自分の判断力と識別力に対して不名誉の種になると考えている。

G 兄弟、あなたは自分の魂を失う危険が大いにある。あなたは卓越したいと思っている。あなたはときどき、自分がなおざりにされているのではないかと深く感じる。あなたは幸福な人ではない。もしあなたが、真理があまりにも厳密なために、キリストに従う多くの者がしたように、はっきりとしたみ言葉と事実につまづいて神の民を離れるなら、あなたは幸福にはならない。あなたは自己というものを連れ歩くがために、幸福な人にはなれない。あなたは正しくない。あなたは自分で自分を悩ませているのである。あなたの気質があなたの敵なのであって、どこへ行っても、あなたは自分と共に不幸という自分の重荷を連れて行くのである。過ちに気づいたらすぐにそれを告白するのは名誉なことである。

神のみ働きとの関係において、あなたが誤りをみつける事柄が多くある。なぜならそうするのはあなたにとって自然だからである。そして神があなた自身に関してお示しになった光に、あなたが顔をそむけたがゆえに、あなたは識別力を速やかに失いつつあり、これまでもまぎって、あらゆることにあら探しをする用意ができています。あなたは独断的な確信をもって自分の意見を出し、他人の質問を自分の意見に関する個人的な悪口とみなす。真の精練された独立は、経験ある人、知恵ある人の勧告を求めることを沽券(こけん)に関わると思うようなことは決してなく、敬意を払って他の人の勧告を扱うのである。(教会への証 4 巻 239,240)

4月13日

真の自由の本質

「わたしたちは女奴隷の子ではなく、自由の女の子なのである。」（ガラテヤ 4:31）

自己義はこの時代の危険であり、魂をキリストから引き離す。自分の義を信頼する者は、救いがキリストを通してどのように来るかを理解できない。彼らは罪を義と呼び、義を罪と呼ぶ。彼らは違反の罪を正しく評価せず、律法の恐ろしさを理解しない。なぜなら彼らは神の道德基準を尊重しないからである。今日、偽の改心が非常に多くある理由は神の律法の正当な評価があまりに低いからである。人々は品性を量るのに、神の義の基準の代わりに自分たちの基準を立ててきた。彼らはガラス越しにぼんやりと見、人々に聖化の誤った考えを示し、このようにして自己本位、自尊心、自己義を励ましてきた。多くの人に支持されてきた聖化の教義は欺きに満ちている。なぜならそれは生来の心にへつらっているからである。しかし罪人に宣べ伝えることのできるもっとも親切なことは、神の律法の拘束力についての真理である。信仰と働きは手に手をとって進まなければならない。なぜなら働きのない信仰はそれだけでは死んだものだからである。（信仰と働き 96,97）

イエス・キリストを信じる者はだれも神の律法への奴隷状態の下にはいない。なぜならその教訓に従うものにとって、このお方の律法は命の律法であり、死の律法ではないからである。律法の靈性を把握するすべての者、その力を罪の探知機としての力を悟るすべての者は、救済的なイエス・キリストの犠牲のうちに彼らのために備えられた贖罪を受け入れないかぎり、サタン自身とまったく同様に無力な状態である。……キリストを信じる信仰によって、律法の一つ一つへの服従は可能となる。（SDA バイブル・コメンタリー [E.G. ホワイト・コメント] 6 巻 1077）

わたしたちは真理の喜びの中を歩むことができる。わたしたちには奴隷のくびきは必要でなく、かえって、慰め、わたしたちを元気づけ、心の内に神への快い調べをかなでるようにする、大いなる喜びのよき知らせである。……

真理は魂の最も深い奥まったところへ届き、キリストの精神に似ていないあらゆるものを清め去らなければならない。そして、その空いたところはこのお方の品性の特質で満たされなければならない。（わたしたちの高い召し 33）

心から従うことを学ぶ

「神は感謝すべきかな。あなたがたは罪の僕であったが、伝えられた教の基準に心から服従して」(ローマ 6:17)

あなたは自分の特権すべてとあなたの手を通った財産すべてに対して説明責任がある。あなたは良心と神の是認を犠牲にして自分自身の快楽と利己的な満足を求めてきた。あなたは、ご自身の尊い血潮であなたを買い取られた救い主に対して責任のあるキリストの僕のように行動しなかった。……

あなたはキリストの僕であると公言している。それならばあなたはこのお方に進んで快く従う従順をお捧げするであろうか。あなたはキリストの十字架の兵士になるようにとあなたを召しておられるお方をどのようにしたら、一番お喜ばせてできるか熱心に尋ねるであろうか。あなたは……十字架を掲げ、その中で得意になって喜ぶのであろうか。神に対してこれらの質問に答えなさい。あなたの行動はすべて、それらは秘密になっているとあなたが考えようと、あなたの天父には明らかであり、何も隠れることなく、覆われるものは何もない。あなたの行動とそれらを引き起こす動機は、その御目に明らかである。このお方はあなたの言葉と考えをすべて完全に知っておられる。あなたの考えを統御するのはあなたの義務であり、むなしい想像に対して戦わなければならない。あなたは、自分の考えが生来のまま抑制なく走ることを許しても罪はないはずだと考えるかもしれないが、そうではない。あなたはむなしい考えにふけることについて神に対する責任がある。なぜならむなしい想像から罪の実行が生じ、思いがいつも考えていることを実際に行なうようになるからである。あなたの考えを治めなさい。そうすればあなたの行動を治めるのがもっと容易になる。あなたの考えは聖化される必要がある。パウロはコリント人に、「神の知恵に逆らって立てられたあらゆる(想像とあらゆる傲慢なこと) 障害物を打ちこわし、すべての思いをとりこにしてキリストに服従させ、」と書いている(コリント第二 10:5)。あなたがこの立場に来るとき、献身の働きをあなたはもっとよく理解する。……あなたの考えは純潔で、汚れなく、高められ、あなたの行動は純潔で罪のないものとなる。あなたの体は聖化と栄誉のうちに保たれる。……あなたは大きな事柄と同様にささいなことにも自己を否定するよう要求される。(教会への証 3 巻 82,83)

4月15日

だれが自由に歩むか

「わたしはあなたのさとしを求めたので、自由に歩むことができます。」(詩篇 119:45)

人々の手首にかせを掛けるのは何であろうか。それは律法への服従であろうか。否、決してそうではない。律法を守る者は自由に歩む。くびぎにつながれているのは、違反者である。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1889年9月30日)

しばらく前、わたしたちがニューヨーク州オズエゴを通り抜けていたとき、二人のいかめしい警官と、彼らに二人の男がつながれて、その手の中に大きな鉛玉を運んでいるのを見た。わたしたちは、彼らがニューヨーク州の法律を守っていたという結論に達することはなかった。そうではなく、彼らはそれを破っていたのであって、彼らが法律の違反者であるがゆえに自由に歩くことができなかったのである。わたしたちはニューヨーク州のすべての法律と神の律法に調和して生きようと努めてきた。そしてわたしたちは自由に歩んできた、すなわち律法のくびぎの下にはいなかった。もしわたしたちがキリストの生涯に調和し、神の律法に調和して生きるなら、律法はわたしたちに有罪を宣告しない、すなわちわたしたちは律法のくびぎの下にはいない。

わたしたちが追い求めることのできる二つの進路がある。一つはわたしたちを神から離れるよう導き、その王国からわたしたちを締め出す。そしてこの道にはうらやみ、争い、殺人、すべての悪い行為がある。わたしたちが従うべきもう一つの進路はそれを実行すると喜び、平安、調和、愛が見出される。愛、それはわたしたちが大切にすべきものである。そしてわたしたちが最も必要としているのはわたしたちの心の内にあるキリストの愛である。わたしたちは他のなにものにも勝ってこの尊い恩恵を欠いており、最も必要なのはイエスの胸に燃えている愛である。そしてそれが心の内にあるとき、それ自身が現れる。わたしたちは心の内にイエス・キリストの愛を持ち、それが他の人々に出て行かないようにすることができるであろうか。それはそこにあることを証することなく存在することはできない。それは言葉の中に、表情そのものの現れの中にそれ自身を表す。(ビュー・アンド・ヘルド 1887年1月4日)

神の戒めは奴隷のくびぎではなく、それらへの服従の中にわたしたちが恥じるものは何もない。わたしたちは、神の律法を守るよう要求されていることによって、厳しく制限されていると感じるべきではない。主はわたしたちにとって善であるものを何一つわたしたちに制限なさることはない。わたしたちはこのお方の教訓への不従順を恥じるべきである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1894年10月15日)

神の道のうちに喜ぶ

「あなたのおきてがわが喜びとならなかったならば、わたしはついに悩みのうちに滅びたでしょう。」(詩篇 119:92)

聖書の宗教がその教えに従おうとする者に課す拘束に関して残念そうに話す者がいる。彼らは拘束は非常に不利なものであると考えているように見える。しかしわたしたちには、神がわたしたちと敵の陣地の間に天来の防壁を建ててくださっているという神に心から感謝すべき理由がある。個人の最高の発達という結果をもたらすためには従わなければならないと多くの人が考える生来の心の傾向があるが、神は人は不可欠であると考えるが人々の想像するような人間の祝福とはならないのをご覧になる。なぜなら品性のこれらの特性そのものの発達は、彼らを上なる住まいに適さない者とするからである。主は、不純物を金から分けることができるように、人々をテストと試練の下におかれる。しかしこのお方はだれをも強いることはなさらない。このお方は足かせ、ひも、障壁で縛ることはなさらない。なぜなら彼らは不満を減らすよりは募らせるからである。……宗教は活動的な働く原則であり、人生の厳しい現実のために十分な耐久性を供給する。……宗教はそれを持っている者に絶えず品性と知性と感情を抑え、支配し、釣り合いをとる力を与える。すべての者に神の権威をもって能力と愛情を引き出し、懇願し、命じる力がある。宗教……ああ、わたしたちがみなその働きを理解するとよいのに！それはわたしたちを最も重い義務の下に置く。わたしたちが自分自身をキリストに結びつけるとき、キリストが歩まれたように歩むと厳粛に誓う。

わたしたちを暗闇からその驚くべきみ光の中に招き入れてくださったお方をたえるのはわたしたちの特権である。……主の道は守られねばならず、このお方の道は義のうちに高められる。クリスチャンは、自分たちの態度と言葉と品性で自分たちが天の家系であることを表すべきである。わたしたちはクリスチャンであることと、あえて正しくあることを、世に対して謝罪する必要は決していない。

純潔な宗教は平安、幸福、満足をもたらす。信心はこの世においても来るべき世においても益となる。(わたしたちの高い召し 333)

4月17日

わたしたちの優先事項をはっきりさせる

「主よ、あなたの定めのを道をわたしに教えてください。わたしは終りまでこれを守ります。わたしに知恵(悟り)を与えてください。わたしはあなたのおきてを守り、心をつくしてこれに従います。」(詩篇 119:33,34)

わたしたちは自分自身の心を研究し、自分自身の何らかの基準によって自分自身の行動を正すべきであるかのように見えるかもしれない。しかしそうではない。これは改革ではなく、改悪の働きになる。その働きは心のうちで始まらなくてはならない。そうすれば精神、言葉、表情、生活の行動が、変化のおきてしていることを表すようになる。キリストが豊かに注いでくださった恵みによってこのお方を知ること、わたしたちは変えられ、真理を信じる信仰によって聖化される。内なる命は成長して強くなり、ふるまいがことごとく神のみ旨に一致するようになる。わたしたちは自分が無きに等しいと感じ、神にまったく依存していることを悟るがゆえに、へりくだりが培われる。(ユース・インストラクター 1893 年 8 月 31 日)

従順は心から生じなければならない。それはキリストにあつては心の働きであった。わたしたちがキリストに栄誉を帰そうと努めるとき、失望がわたしたちに來る。敵は全力を挙げて、わたしたちを正しいことからそらそうとするであろう。しかし、それだからといって、わたしたちは悪に対する戦いをあきらめてしまう必要はない。わたしたちの義務は注意深く自分の品性の弱点を守り、神の恵みによってそれらを強くしようと努めることである。神から何の力も受けずに生きている人は一人もいないし、その力がもたらされる源は最も弱い人間に開かれている。もしわたしたちが、尽きることのない力の源であられる神に近づくならば、次の約束の成就を認めるようになる、「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう」(ヨハネ 16:24)。もしわたしたちが十字架を掲げ、結果は、わたしたちが守ろうとしている律法を下さった神におゆだねするなら、「主のすべての道はその契約とあかしとを守る者にはいつくしみであり、まことである」ことを見出すようになる(詩篇 25:10)。

人性においてキリストが律法を生きられたように、わたしたちも力を求めて強いお方をつかむならば、そのようにすることができる。わたしたちが自分自身では何もできないことを自覚するとき、神に誉れと栄光を帰すために知恵を受けるのである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1897 年 3 月 4 日)

従うこと、そして愛すること

「あなたのあわれみをわたしに臨ませ、わたしを生かしてください。あなたのおきてはわが喜びだからです。」(詩篇 119:77)

あなたは自分の不信の態度によって、神は不公平や不忠実だと訴えてはならない。あなたの疑いは、このお方のみ約束の真実性に非難を投げかける。生きた信仰のうちにイエスのみ許へ来て、このお方のみ言葉を行う者となるとき、あなたは主がいつくしみ深いお方であることを味わい知り、悟るようになる。あなたはすべての人に、「このお方の打たれた傷によって、わたしたちはいやされたのだ」というようになる。あなたはイエスのことを、ご自分によって神の許へ来るすべての人を最高にまで救いたいとのぞみ、救うことがおできになるお方として考え、イエスのことを語るようになる。もしあなたが自分の救い主としてキリストを信じるならば、このお方の完全な服従があなたの勘定に記載される。……

もしあなたが、自分は罪深いからと言って、イエスの許へ来ないのであれば、あなたはいつまでも罪深いままであり、自分の罪のうちに死ぬ。あなたはこのお方に絶対的な信仰をもってより頼まない限り、清めの力を感じることはできない。あなたはキリストの許へ来て完全にしてもらおうのであろうか、あるいはいつまでも不信仰のままでいて、なおも自分のみじめな状態を嘆くのであろうか。見て、生きなさい。眺めることによって、あなたはこのお方のみすがたに変えられていく。(現代の真理 1890 年 1 月 30 日)

あなたの生活において、神のすべての戒めへの服従をなしとげるのは、イエスを信じる信仰である。あなたはキリストを自分の将として受け入れ、このお方の軍に入隊しないのであろうか。あなたは暗黒の君の黒い旗じるしを後にして、インマヌエルの君の血染めの旗じるしの下で進軍しないのであろうか。あなたは自分の将の命令に従い、イエス・キリストの良き兵卒として困難に耐え、信仰の良き戦いを戦い、永遠の命をつかまないのであろうか。あなたは不法の状態から服従と愛の状態へと出てこないものであろうか。イエスを信じる人々には、神の律法に対する恨みはない。彼らはこのお方の律法を喜び、もした自分たちの主人に誉れを帰し、魂をこのお方の王国のために勝ち得ることさえできるなら、自己否定をたいしたことではないと考える。わたしたちは日ごとに十字架を掲げ、わたしたちの大切な贖い主のみ足の後に従わなければならない。(ビュー・アソ・ハルド 1888 年 2 月 14 日)

4月19日

希望をもたらす約束

「しかし、それらの日の後にわたしがイスラエルの家に立てる契約はこれである。すなわちわたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となると主は言われる。人はもはや、おのおのその隣とその兄弟に教えて、『あなたは主を知りなさい』とは言わない。それは、彼らが小より大に至るまで皆、わたしを知るようになるからであると主は言われる。」(エレミヤ 31:33,34)

〔キリストの初臨の前に〕全世界は腐敗の汚物だめになりつつあった。このように不和と墮落の成分をもったかたまりの中に、新しいパンだねが投じられるというただ一つの希望が人類にあった。そこには、人類に新しい生命力がもたらされ、神の知識が世に回復されるはずであった。キリストは、この知識を回復するためにおいでになった。彼は、神を知っていると公言している人々が、神を誤り伝えているその偽りの教えをとりのぞくためにおいでになった。彼は、神の律法の性格を明らかにし、ご自身の品性の中に聖潔の美しさを表わすためにおいでになった。

キリストは、蓄積された永遠の愛をもって、この世においでになった。彼は、神の律法につけ加えられて、これを煩わしいものにしていたこまかい規則を片づけて、神の律法は愛の律法であり、神の恩恵の表現であることを示された。彼はこの律法の原則に従うことの中に、人類の幸福があり、同時にそれは人類社会の基礎となり骨組みとなって、安定をもたらすものであることを示されたのである。

神の律法は、専横な要求をするどころか、かえってそれは、人類を守るための囲いとして、また楯として与えられているのである。律法の原則をうけ入れる者はだれでも悪から守られる。神に対する忠誠心の中には、人に対する忠誠心が含まれている。このように律法はひとりびとりの人間の権利と個性を擁護する。それは、上位の者の圧迫と下位の者の不服従を防ぐ。律法は、現世のためにも来世のためにも人の幸福を保証する。律法は、これに従う者にとって永遠の生命の保証である。なぜならそれは永遠に保つ原則の表現であるからである。(教育 75,76)

義は、神の偉大な標準、すなわち十誡によってのみ、定義づけることができる。品性を量る規則は他にない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1895 年 1 月 20 日)

新しい従順な心

「わたしが、それらの日の後、イスラエルの家と立てようとする契約はこれである、と主が言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう。こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう。」
(ヘブル 8:10)

もしわたしたちが戒めの遵守者になることが可能でないとすれば、なぜ〔神は〕ご自分の十誡への服従を、ご自分を愛する証拠となさるのであるのか。(ハイヴル・コメンタリ [E. G. ホットコメンツ] 1 巻 1092)

イエス・キリストを通して、知恵と恵みと力を得る道が開かれた。このお方は万事における模範であられる。真理のメッセージを奉じる人々が、ごくはじめに学ぶべき教訓は、キリストと結合し、このお方の恵みの力を魂に受けて、品性のすべての不純物を溶かし去り、思いでさえもとりにすることである。これは、キリストがご自分の律法を心に印象づけ、そこに記すことができるために、心を服従させることを通してなされなければならない。これはすべての魂のために成し遂げられなければならない働きである。それによって真理を愛する人がみな、聖化し、精錬し、高尚にする真理の力を、品性の上に、精神に、言葉に、そして行動にあらわすのである。(南アフリカへの証 28)

聖霊の働きの必要性がすべての人によってはっきり理解されるべきである。全存在を新たにし聖化するのを働きとするこの御霊がキリストの代表として受け入れられ、大事にされないかぎり、人間に委ねられてきた重大な真理は、思いに及ばずその力を失う。真理の知識を持つだけでは十分ではない。わたしたちは自分たちの意志を神のみ旨に調和させつつ、愛のうちに歩み、働くべきである。このようにする人々について主は次のように宣言しておられる、「わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう」(ヘブル 8:10)。神は、この変化の働きにおいて、力強い全能の執行者であられる。ご自分の聖霊によって、このお方はご自分の律法を心に記される。

こうして神と人との間の神聖な関係が新たにされる。〔ヘブル 8:10 引用〕。「人がわたしのすがたを表すことができるために、惜しみなく与えないような属性はわたしの性質にない。」わたしたちが自分たちのうちに神に働いていただくとき、罪を抱くことはない。清めの炉で、すべての不純物は燃え尽きる。(レビュー・アンド・ヘルド 1902 年 6 月 10 日)

4月21日

聖潔に至る実を結ぶために学ぶ

「あなたがたが罪の僕であった時は、義とは縁のない者であった。その時あなたがたは、どんな実を結んだのか。それは、今では恥とするようなものであった。それらのものの終極は、死である。しかし今や、あなたがたは罪から解放されて神に仕え、きよきに至る実を結んでいる。その終極は永遠のいのちである。」(ローマ 6:20～22)

世界の救いの唯一の望みは、イエス・キリストだと信じると公言する人々が、誤謬の闇の中にいる人々にこのお方を知らせるために、あまりに何もしないのを見て、全宇宙はどのように思うであろうか。すべての人の判決が永遠に下るとき、恩恵期間の間に自分たちの仲間に対してこれほど偉大な救いをなおざりにする人々を待ちうけている運命について、警告してこなかった人々の罪は、どれほど巨大に見えることであろう。そのとき、クリスチャンだと公言する人々ができたはずでありながら、しなかったことについて、どんな啓示がなされることであろう。彼らは自分たちの道具を通して、神と共に働く共労者になっていれば救えたはずの魂を、どれほどたくさん見るであろう。神を愛すると公言する多くの人々は、氷のような零気味のうちに閉じ込められ、キリストの愛が一度も彼らの魂を溶かしたことがないかのようである。(ビュ・アソ・ヘラルド 1896 年 7 月 21 日)

何であれ愛情を分裂させ、魂から神への最高の愛を取り去るものは、一種の偶像だと考えて間違いない。わたしたちの肉の心は自分たちの偶像にしがみつき、それを持ち歩こうとする。しかし、わたしたちはそれらを捨てない限り、前進することはできない。なぜなら、それらはわたしたちを神から引き離すからである。教会の偉大なる頭は、ご自分の民を世から選び出し、彼らに分離するよう要求される。このお方はご自分の戒めの精神が彼らをご自分に引き寄せ、世の要素から引き離すようにと意図しておられる。神を愛し、このお方の戒めを守ることは、世の娯楽と友情を愛することとはほど遠い。(教会への証 1 巻 289)

わたしたちは目覚めなければならない。そしてイエスのうちにあるがままの真理を理解しなければならない。わたしたちはいやな働きを避けようとしないうちに、神のみ言葉に勧告を求める必要がある。自分たちが神と共に働く共労者であることを悟るとき、半分無関心にみ約束を語ることはない。かえってそれらはわたしたちの心のうちに燃え、わたしたちの唇に火をとますのである。(ザン・ワーク 56)

石の心が溶かされる

「そしてわたしは彼らに一つの心を与え、彼らのうちに新しい霊を授け、彼らの肉から石の心を取り去って、肉の心を与える。これは彼らがわたしの定めに歩み、わたしのおきてを守って行い、そして彼らがわたしの民となり、わたしが彼らの神となるためである。」(エゼキエル 11:19,20)

あなたは自分の心がかたくなに見えるからといって失望してはならない。すべての障害、すべての内なる敵は、ただあなたがもつとキリストを必要とするだけである。このお方は石の心を取り除き、あなたに肉の心を与えるために来られた。あなたの特別な欠点に勝利するための特別な恵みを求めて、このお方を仰ぎなさい。誘惑に攻め囲まれるとき、断固として邪悪な促しに抵抗しなさい。自分自身の魂に次のように言いなさい。「わたしはいかにしてわたしの贖い主を辱めることができよう。わたしは自らをキリストにお捧げしたのである。サタンの働きをするわけにはいかない。」すべての偶像を犠牲にし、すべての大事にしている罪を取り除くための助けを求めて、愛する救い主に叫びなさい。信仰の目で御父の前に立ち、あなたのために嘆願しておられるときに、ご自分の傷ついたみ手を差し出しておられるイエスを見なさい。あなたの尊い救い主を通して、あなたに力がもたらされることを信じなさい。……

もしわたしたちが自分の思いをもつとキリストと天の世界を考えるようにするなら、主の闘いを戦う時の強力な励みと支持を見出す。わたしたちが、すぐにも自分たちの家郷となるより良い地の栄光を考えると、世の誇りと愛はその力を失う。キリストの麗しさのほか、すべての地上の魅力はあまりにも価値がないように見える。(きよめられた生涯 90,91)

十誡の「せよ」、「してはならない」というのは、もしわたしたちが宇宙を統治している律法に従順を捧げるなら、わたしたちに保証された十の約束である。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」(ヨハネ 14:15) ……

シナイの山上で、キリストによって語られた十の聖なる規則は、神のご品性の啓示であり、このお方が全人類の嗣業に対する統治権を持っておられるという事実を世に知らしめるものであった。人間に提示しうる最大の愛の十の規則をもつこの律法は、約束のうちに天から語りかける神のみ声である。「こうしなさい、そうすればサタンの統治と支配下に陥ることはない。」律法には、たとえそう見えたとしても、否定的なところはない。それは行い、生きよ、というものである。(バイブル・コメント [E . G . 初版コメント] 1 巻 1105)

4月23日

新しい心とは変化した生活である

「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。わたしはまたわが霊をあなたがたのうちに置いて、わがために歩ませ、わがおきてを守ってこれを行わせる。」
(エゼキエル 36:26,27)

神のみ言葉の中に記録されている最も熱心な祈りの一つは、ダビデが次のように祈った時の祈りである、「神よ、わたしのために清い心をつく〔つ〕……てください」(詩篇 51:10)。そのような祈りに対する神の応答はいつも、わたしは新しい心をあなたがたに与える、である。この働きは有限な人間はだれもできない。男女は、まず真のクリスチャン経験をこの上なく熱心に求めることから始めなければならない。彼らは聖霊の創造の力を感じなければならない。彼らは天の恵みによって柔らかくやさしく保たれた新しい心を受けなければならない。利己的な精神は魂から清められなければならない。彼らは熱心に心のへりくだりをもって働き、各々導きと励ましを求めてイエスを仰ぐのである。そのとき、建物は、互いにぴったりと合い、主にある聖なる宮へと成長していく。

青年は特にこの「新しい心」という言葉につまずく。彼らはそれが何を意味するのかわからない。彼らは自分たちの感情に何か特別な変化が起こることを期待する。これを彼らは改心と呼ぶ。この過ちをめぐって、「あなたがたは新しく生れなければならない」という表現を理解せずに(ヨハネ 3:7)、何千もの人々がつまずき、破滅した。

サタンは人々が感情の高揚を感じたから、自分たちは改心したと思わせる。しかし、彼らの経験は変わらない。彼らの行動は以前と同じである。彼らの生活は少しも良い実を見せない。彼らはしばしば長く祈り、自分たちはこれこれこういう時にこんな気持ちになったということをいつも言及している。しかし、彼らは新しい生活を送らない。彼らは欺かれている。彼らの経験は感情より深くない。彼らは砂の上に建てており、逆境の風が吹くとその家は一掃されてしまう。……

イエスが新しい心について語られるとき、このお方は思い、生活、そして存在全体を意味しておられる。心の変化があるということは、世から愛情をひきあげ、それらをキリストへ結びつけるということである。新しい心を持つということは、新しい思い、新しい目的、新しい動機を持つということである。新しい心のしるしは何であろうか—変化した生活である。(わたしたちの高い召し 159)

自由にされる：ある一例

「また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。」(ヨハネ 8:32)

真理はそれを愛し、それを通して聖化される者を自由にする。(わたしたちの高い召し 33)

わが兄弟よ、わたしはあなたにお願いする、自由な人となきなさい。……

世に必要とされている男女、すなわち力と大いなる栄光をもって主がまもなく来られるというメッセージを宣布する男女に責任が負わされている。この警告が宣布されなければならない。この時代のための真理を知っている人々は、それを持って出ていき、まだ知らない人々に伝えなければならない。彼らは偉大な伝道者キリストと協力しなければならない。このお方のみ働きは人々を神に引き寄せることであった。このお方はご自分を隠すことに同意なさり、ご自分の神性を人性の衣の下に隠された。

わたしは……自分たちの信仰を失いかけ、また自分たちの初めの愛を失いかけている人々に、そこを離れて、なおざりにされていた伝道地で神のみ働きに取りかかるようにとお願いする。信仰にしっかりと確立されていさえすれば携わることのできるはずのみ言葉のご用や尊い伝道の働きをできない者にしてしまう危険のある墮落的な理論の感化力から回復したらすぐに開始しなさい。行動は、言葉よりも、大きく語る。……

多くの人々の信仰は、自分の心を神のみ前にへりくだらせ、次のキリストの任務を果たしに出ていくときに生き返る。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」(マルコ 16:15)。(パトル・クリク・レターズ 114)

ああ、わたしたちの兄弟姉妹が真理の価値を正しくはかることができるなら！ああ、彼らがそれによって聖化されるなら。ああ、彼らがこの真理を他の人々に伝えるという責任が自分たちにあることを自覚できるなら。しかし、彼らは真理に生きる重要性、すなわちキリストのみ言葉を行う者になる重要性を感じない。多くの人々は自己満足している。彼らはキリストの弟子たちを活気づけるべき伝道精神に満たされていない。もし彼らが他の人々のために魂の苦しみを持つということがどういう意味かを知っているなら、神の御使たちは彼らを通して真理の知識を伝えるために働くことであろう。彼らは真理を知って、真理は彼らを自由にするであろう。金銭が……新しい伝道地を開くのに用いられるであろう。(教会への証 8 巻 151,152)

4月25日

本当に自由

「もし子があなたがたに自由を得させるならば、あなたがたは、ほんとうに自由な者となるのである。」(ヨハネ 8:36)

神の律法の判決の力は、わたしたちがすることにばかりではなく、しないことにまで及ぶ。わたしたちは神の要求なざることをせずに省くことにおいて、自らを正当化してはならない。わたしたちは悪をやめるばかりでなく、善を行うことを学ばなければならない。(セクレット・メッセージ 1 巻 220)

全身に及ぶキリストの御愛が人を活気づける力となるのである。それはすべての重要な部分すなわち脳や心臓や神経にやす力をもって触れる。それによって人間の最高のエネルギーが覚せいされ、活動するようになる。これは生命力を破壊するような罪と悲しみ、憂慮や心労から人間を解放する。そして平静さと落ち着きを与える。またそれはこの世の何ものも破壊することのできない喜び、すなわち聖霊による喜び、健康的なまた生命を与える喜びを心の中に植えつける。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 85)

しっかりした力のある人間が必要とされている。障害物がすべて取り除かれ、前途が平坦になるまで待たない人、落胆した働き人を発らつとした元気をもって鼓舞する人、その心はクリスチャンの愛であたたかく、主の働きをするにふさわしいじょうぶな手の持ち主、こう言うたぐいの人が必要とされている。伝道に従事している人の中には弱い、無気力な、勇気のない、失望しやすい人がいて、奮発心がなく、なんでもやろうという熱意を起す精神と力に欠けて、積極的な性格がない。成功したいと思う者は勇敢で希望にみちていなければならない。消極的な長所だけではなく、積極的な長所も養わなければならない。怒りをそらす柔らかい答を与えると同時に悪に抵抗する英雄的勇気も持っていなければならない。万事に耐える愛を持つとともに、その感化を決定的な力とする強い性格が必要である。……

この柔弱、優柔不断、無能力に勝利しなければならない。真のクリスチャンの性格には、逆境におかれても変ったり、負けたりすることのない不撓不屈なものがある。わたしたちの精神には背骨がなくてはならない、すなわち、おせじ、わいろ、脅迫などをもってすることのできぬ高潔さが必要である。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 483,484)

正しいことをなす奉仕

「罪から解放され、義の僕となった」(ローマ 6:18)

わたしがはじめに魂のための重荷を感じたのは、14歳を少し過ぎたときであった。しかし、ああ、わたしは自分の若い仲間たちが正しい道に導かれるために何と言えば良いかを知るために、どれほど神に嘆願したことであろう。わたしは自分が成功しなければならないと感じた。わたしは主人であるお方のために働かなくてはならないから、神が知恵を下さるはずだと感じた。わたしが16歳のとき、公に活動的な働きを始めた。わたしは自分の働きに裁きにおいて直面しなければならないこと、またわたしがどのようなやり方でこの働きをしたかが天の書に記されることを感じた。わたしは神と格闘し、このお方がわたしに知恵を下さるよう、このお方の働きがわたしの手のうちで傷つけられるのではなく、受け入れられるものとなるようにと魂を悩ませた。40年間以上、わたしは自分の主人であられるお方のために活動的な働きに従事してきたが、今日、わたしは他の人々に真理を提示するための知恵を神に求める必要を、16歳の時に感じたのとまったく同じように感じる。そしてわたしが民に語ろうとするたびに、いつも自分がなすべきほど完全に働きをなすことができなかったことを深く感じる。わたしはより多くの光を反射させていないがゆえに深くへりくだり、わたしがより大きな完全さをもってこのお方の働きをなすことができるように、より多くの恵みとより多くの知恵を与えて下さるよう、神に嘆願する。……

現代の真理を受け入れるすべての人にとって重要不可欠なことは、品性の完全と魂をキリストに勝ち取る際の徹底さを目指すことである。自分の働きにおいて、前進し、向上することを決心しなさい。そうすればあなたは絶えず進歩を遂げるようになる。なぜなら、この光を受けてきた人々は、前進するにつれ、自分たちがもっとキリストの霊を自分自身の生活と品性にもたらさなければならないこと、さもなければ彼らはそれを他の人々の生活にもたらすことができないことを感じるからである。そしてあなたは自分の友人たちとの会話の中で自分の言葉が彼らにとって祝福となるようにすべての機会を活用することができる。あなたが真理を彼らに興味を起こさせるような方法で提示できるように、あなたの思いに仕事をさせなさい。あなたが彼らの前に示すことのできる聖句の最も興味深い部分をとらえ、まっすぐに要点を話し、彼らの注意をとらえるように努め、彼らを主の方法によって教えなさい。(レビュー・アンド・ヘラルド 1887年7月26日)

4月27日

気をそらすものをどう対処するか

「兄弟たちよ。あなたがたが召されたのは、実に、自由を得るためである。ただ、その自由を、肉の働く機会としないで、愛をもって互に仕えなさい。」(ガラテヤ 5:13)

わたしたちは最も厳粛な時代に生存している。サタンと悪天使たちは徒党を組んで、強力な力でわたしたちに敵対している。世は彼らを助けるために彼らの味方になっている。そしてもっとも嘆かわしい事実は、重要で厳粛な真理を信じると主張している自称安息日遵守者が、自分たちの力を闇の権力の感化力と結託させて、気をそらさせ、妨げ、あるいは〔キリストが〕ご自分の選ばれた器に築き上げるように要求されたものを壊していることである。ある者は、直接的に壊しはしないが、間接的に壊す。彼らは無関心にながめ、疑いや疑惑や恐れを口にし、疑い深いトマスよりも大きな証拠を必要としている。彼らは熱心さをもって働くために自分の手をかけることも、また築き上げるために自分たちの精力を働かせることも、しようとしないう、しないのである。彼らの感化力は神の民の間における前進と改革の働きを遅らせるものとして記録されている。

御使は言った、「キリストと共に集めない者は、散らす者である」。中立などという立場はない。すべての人は感化力を持っており、その感化力は是か非かに物を言うのである。(原稿別ス5巻 61,62)

さて、わたしたちは何が罪であるかを知りたいのである—それは神の律法の違反である。これが聖書の中で与えられている唯一の定義である。であるから、わたしたちは神に導かれていると主張しながら、神とその律法からすぐに離れていく人々は聖書を調べていないことが分かる。しかし、主はご自分の民を導いておられる。……

サタンが自分はキリストだと主張しながら、あなたの目の前で奇跡を働く時が近づいている。そしてもしあなたの足がしっかりと神の真理の上に固まっていないなら、そのとき、あなたは自分の基礎からそらされてしまう。……

あなたは失望しても、心を弱くしてもならない。ヨシュアに与えられたみ言葉は、「強く、また雄々しくあれ」であつた(ヨシュア 1:9)。なぜなら、あなたの前には大きな働きがあるからである。そして彼の成功は、彼の神への服従にかかっていた。誘惑者があなたの気をそらすために来るとき、もしあなたの思いが聖句で満ちているなら、あなたは、わたしは主に対してこの悪と罪を行うことはできない、と言うのである。(レビュー・アンド・ヘルド 1888年4月3日)

わたしたちはどちらの鏡を見ているか？

「完全な自由の律法を一心に見つめてたゆまない人は、聞いて忘れてしまう人ではなくて、実際に行う人である。こういう人は、その行いによって祝福される。」(ヤコブ 1:25)

デュッセルドルフ〔ドイツ〕で、わたしたちは〔鉄道の〕車両を乗り換え、その駅で二時間待たなければならなかった。ここでわたしたちは人間の性質を研究する機会を得た。婦人たちがやって来て、自分たちの外套を着替え、あらゆる角度から調べて、自分たちの衣服が問題ないかどうかを見た。それから、自分たちの顔にさらに粉をはたかなければならなかった。人の目から見て最高に見えるようにとの目的のため、自分たちの衣服を自分たちの満足いくように整えるために、長い間、鏡の前にとどまった。わたしは神の律法、すなわち罪人が自分の品性の欠点を発見するために見るべき大いなる道徳的な鏡について考えた。もし多くの人々が鏡を使って自分たちの外見を勤勉に厳しく調べるように、すべての人が品性のすべての欠点を正し、改革する目的で、神の律法―品性の道徳的標準―を研究したなら、彼らのうちになんという確かな変化が起こることであろう。「おおよそ御言を聞くだけで行わない人は、ちょうど、自分の生れつきの顔を鏡に映して見る人のようである。彼は自分を映して見てそこから立ち去ると、そのとたんに、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう」(ヤコブ 1:23,24)。……

神の道徳的な鏡、すなわちこのお方の律法を見るとき、品性に欠点がある者として自分を見る人々が多い。しかし、彼らはあまりにも「あなたがしなければならぬことは、信じることです。ただイエスがすべてをしてくださったことを信じさえすれば、あなたのすることは何もありません」というのを聞いてきたために、あえて鏡を見てみた後で、自分の欠点をみな持ったまま、「イエスがそれは全部してくださった」と口にしながら、すぐさまそこから離れてしまう。これらの人々はヤコブが示した比喻―自分を映して見てそこから立ち去ると、そのとたんに、自分の姿がどんなであったかを忘れてしまう人―によって表されている。……信仰と行いは、……世俗、誇り、虚無の潮流に逆らって用いられなければならない二つのオールである。そして、もしこれらが用いられなければ、小舟は潮流と共に下方へ向かって流されてしまう。……神はわたしたちが内なる飾りを備えるために、わたしたちが外面を整えるときと同じくらい注意深く心を整えるのを助けて下さる。(レビュー・アンド・ヘルド 1887年10月11日)

4月29日

型（模範）に焦点を当てる

「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください。」
(詩篇 119:18)

わたしたちは自分たちの前に絶えず型であるお方をおき、わたしたちを罪の奴隷状態から贖うために払われた無限の犠牲を熟考しなければならない。もしわたしたちが鏡を見ると、自ら責めを見出すならば、あえてさらに不法を犯すのではなく、方向転換し、小羊の血で自分たちの品性の衣がしみのないものとなるように洗おう。ダビデがしたように、叫ぼう、「わたしの目を開いて、あなたのおきてのうちのくすしき事を見させてください」(詩篇 119:18)。人類の祝福となるようにと神が時間と資金を委ねてこられたが、それらの賜物を自分自身や子供たちのために不必要に浪費してきた人々は、神の裁判所にて恐るべき会計報告書に直面することになる。……

世の感化力に屈してきた安息日遵守者の中の人々はテストされることになる。終わりの時代の危険がわたしたちに迫っている。そして多くの人々が予期していなかった試練が、神の民だと公言する人々の前にある。彼らの信仰の真偽が試される。多くの人々は、誇りと虚無と娯楽の追及において世俗と結合しながら、なお自分たちはクリスチャンでいられるとうぬぼれてきた。しかし、彼らを神から引き離し、世の子としたのはそのような放縦であった。キリストはわたしたちにそのような模範は残されなかった。ただ自分を否定する人々、謹厳と謙遜と聖潔の生涯を送る人々がイエスに真に従う人々である。そしてそのような人々は、世を愛する人々の社会を楽しむことができない。

多くの人々は、未信者に感化力を及ぼすために、世のように装うが、彼らはこの点において悲しい間違いを犯している。もし彼らが真の救う感化力を持ちたいならば、自分たちの告白通りに生き、自分たちの信仰をその義なる行為によって示し、クリスチャンと世俗の人々の区別をはっきりさせなさい。言葉、衣服、行動が、神のために語るべきである。そのとき聖なる感化力が彼らの周囲にいるすべての人に降り注ぎ、未信者でさえ、彼らがイエスと共にいたことを知るようになる。……彼らに自分たちの告白通りに生き、それによって謙遜な型であられるお方を模倣させなさい。(教会への証 4 巻 632 ～ 634)

自由な律法によって裁かれる

「だから、自由の律法によってさばかるべき者らしく語り、かつ行いなさい。」(ヤコブ 2:12)

天への道は、イエス・キリストを通してである。このお方は世にあらわれるすべての人を照らす光であられる。このお方はわたしたちに最も尊い真理を与えて下さった。しかし、自分たちにとって、知り、実践することが重要不可欠であることを正しく評価していない人々が多くいる。神の民は、重要でない枝葉の問題に貴重な時間を割かないようにしよう。その代わりにキリストと真理への愛が彼らの心を一致と愛のうちに結びつけていること、またこれが彼らを神の戒めへの服従に導いていることを表すために奮闘しよう。

主は将来の生涯におけるわたしたちの幸福のために、あらゆる備えをして下さった。しかし、このお方はこれらの計画に関して何の啓示もしてこれなかった。だから、わたしたちはそれらについて思いめぐらせるべきではない。……

命に関わる重要性をもった事柄が神のみ言葉の中ではっきりと表されている。これらの主題は、わたしたちの最も深い思想の価値がある。しかし、わたしたちは神が沈黙してこられた事柄に関しては、探り調べるべきではない。神の民が理性的に考えられるよう、神が助けて下さるように。わたしたちに確信のない事柄について疑問が起こったときには、「聖書は何と言っているか」と尋ねるべきである。

キリストはわたしたちの救いに重要不可欠な真理を何も控えてはおられない。明らかにされていることはわたしたちとわたしたちの子らのためであるが、わたしたちは明らかにされていないことに関して、自分たちの想像力によって教理を立案してはならない。何度も繰り返し、これらの重要でない主題が議論されてきたが、これらの議論がかつて少しでも役に立ったことはなかった。わたしたちは、注意を奪われ、自分たちに与えられたメッセージの宣布からそらされるのを許してはならない。……わたしたちは重要でない主題に関して議論に入るようにと命じられてはいない。わたしたちの働きは思いを神の律法の偉大な原則に導くことである。

裁きの時に問われる質問はただ一つ、「彼らはわたしの戒めに従順であったか」である。重要でない問題をめぐる些細な争いや論争は、わたしたちの民が必要としていない教育である。その代わりに彼らに次の祈りに応えさせなさい、「みんなの者が一つとなるためであります。……それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります」(ヨハネ 17:21)。(西インドメッセンジャー 1912 年 7 月 1 日)

Good Way Series 研究 1-3



黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (Ⅲ)

III- 教会が自分の運命を決める

アドベンチストの中で「もう一人の御使のメッセージ」が拒まれたことは、一般的に知られていません。

1. メッセージが拒まれた

ホワイト姉妹は次のように記しています：

「いまわたしたちの集会は終わろうとしているが、一つの告白もなされなかった。神の御霊に入っていたくための、ただの一つの機会もなかった。そこでわたしは告げていた。いったい、ここでわたしたちが共に集まり、牧師兄弟たちがやってきたのは何の役に立ったのだろうか、もしここで、ただ神の聖霊を民から締め出すためだけにいるのだとすれば、…牧師たちが光を受けないのなら、わたしは民に機会を与えたい。おそらく、彼らは受けるであろう。」(原稿 9 卷 1888 年)

「もしあなたがすべての人を喜ばせるような方法で光が来るのを待っているなら、むなしく待つことになる。もしあなたがより大声の召し、あるいはよりよい機会を待っているなら、光は取りさられ、あなたは闇の中に取り残されるであろう。神が送られる光線一つ一つをつかみなさい。従順に十字架が伴うという理由で、御霊と神のみ言葉の召しに注意を払うことをなおざりにする人々は、自分の魂を失うことになる。」(ビュー・アンド・ヘルド 1888 年 12 月 18 日)

「わたしはメッセージを、自分が理解した通りに提示しようと試みてきた。しかし、働きの上部にいる人々は、いつまで自らを神のメッセージから超然と距離を置くのであろうか。」(ビュー・アンド・ヘルド 1890 年 3 月 18 日)

「もし彼らがわたしの担ってきたメッセージの中に主の御霊を認めなかったのであれば彼らが今それを認めることはなおさら少ないことであろう。なぜなら、わたしには、御霊と争う力はなく、また彼らの魂をバリケードで囲んできた抵抗、疑い、不信と戦う力はないからである。こうして彼らは善がおとずれたときに認めることができない。わたしには不信者に話すときの方がはるかに大きな自由がある。彼らは関心を持っている。彼らは神の御霊によって印象づけられるのを感じている。そしてこれらの言葉が神の御霊の靈感の下で語られたかのようだと言うのである。

ああ、責任のある地位にいる人々に大きな光が与えられてきたその場所が、世の中で語るのが最も難しい場所である。彼らは啓発されてきたが、光よりも闇を選んできた。…」(手紙 1890 年 32w)

「キリストを拒んだ人々を動かしたのと同じ精神が、彼らの心の中でうずいている。そして彼らがキリストの時代に生きていたならば、このお方に対して、神を信じない不信のユダヤ人と同じような方法でふるまったであろう。」(R & D オフィスへの証 16, 17)

「わたしはミネアポリスにおいて経験したこと、また、人々を支配していた精神、語られた言葉、悪の力に対する従順のうちになされた行動を決して忘れることができない。…彼らは集会で別の霊によって動かされていた。」(手紙 24s, 1892 年)

「あらかじめ考えた意見をあきらめ、この真理を受け入れることを望まない気持ちだが、[E.J.] ワゴナーと [A.T.] ジョーンズ兄弟を通して与えられた主のメッセージに対してミネアポリスで表された反対の大部分の基礎をなしている。…その栄光で全地を満たすことになっている光が抵抗され、わたしたち自身の兄弟の行為によって、大いに世から遠ざけられてきた。」(レクテッド・メッセージ 1 巻 234, 235)

「もしサタンが、真理を信じると主張する人々の思いに印象を与え、激情をかきたて、こうして彼らを悪の勢力と一つになるよう導くことができるなら、彼は大いに喜ぶ。もしひとたび彼が彼らを誤った側に自らの立場を取らせることができれば、彼は彼らを長い旅路へ導く自分の計画を立てているのである。…」

わたしはラオデキヤ人に与えられたメッセージに注意を払うよう、世界総会に集まる兄弟たちに訴えることができたと願う。なんという盲目状態が彼らのものであろう。この〔1888 年のメッセージの〕主題にあなたがたが注意を払うよう

に、何度も何度も持ち出されてきた。しかし、自分の霊的な状態に対する不満は、改革の働きをなすほど、深く苦痛を感じるものではなかった。『あなたは、自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない』。自己欺瞞に対する罪が、わたしたちの諸教会の上にある。」(O.A. オルセンへの手紙 1892 年 9 月 1 日, O.19, d'92)

「わたしはジョーンズとワゴナーがヨシュアとカレブに比較されるのを見た。イスラエルの子らが実際の石で斥候たちを打ったように、あなたがたはあざけりや嘲笑という石をもってこれらの兄弟たちを打ったのである。わたしはあなたがたが故意に、ただ自分たちの尊厳にとってあまりにも屈辱的であるという理由のために、自分たちが真理だと知っていることを拒んだことを見た。わたしはあなたがたのうちの者は、自分のテントで、これらの二人の兄弟たちをまねたり、あらゆる方法でからかっていたのを見た。わたしはまたもしあなたがたが彼らのメッセージを受け入れていたならば、その日から二年のうちには御国にいたはずのことをも見た。しかし、今わたしたちは荒野にもどらなければならない。そしてそこに 40 年間とどまらなければならないのである。」(世界総会冊子 1892 年 5 月 9 日 (メルボルン、オーストラリア))

「わたしたち自身の民が信仰によるキリストの義についての真理の光を拒むことによって、神のみ働きに反対した。これを彼らは受け入れ、そして心と声と筆をもってこだまさせるべきであった。しかし、光が働きの中心にいるこれらの人々にもたらされたとき、彼らはそれをどのように扱うべきかを知らなかった。」(牧師への証 401, 402 (1897 年))

「わたしたちはこの地上において、世に対する神のメッセージを担っている人々に対する迫害の精神をほんのわずかにでもふけることのない者となるべきである。これこそ、ミネアポリスの集会以降、わたしたちの間で表された全くキリストに似ていない最も恐るべき特質である。いつか、そこから結果として生じるあらゆる苦悩の重荷と共に、その真の意味が認められる時が来る。」(世界総会冊子 1893 年 184)

「ミネアポリスで起こった出来事において犯された罪は、天の書物の記録に残っている。…そしてこれらの人々が試され、もう一度同じ地を通るように導か

れるとき、同じ精神が表されるであろう。主が彼らを十分に試されたとき、もし彼らがこのお方に屈服しないならば、ご自分の聖霊を引き上げられるのである。」(O.A. オルセンへの手紙 1892 年 9 月 1 日, O.19, d'92)

2. 使命者が拒まれる

メッセージの拒絶は、使命者、すなわち黙示録 18 章の御使の拒絶を含みます。

黙示録 18 章の御使は運動を象徴しています。主のしもべは次のように言及しています。「天から下って来、栄光をもって地を照らし、力強い声でバビロンの罪を知らせる天使によって象徴されている運動」(各時代の争闘下巻 372)。この運動において、神聖な代理者と人間の代理者の双方が積極的な役割を果たします。黙示録 18 章において、実際に地をその栄光で明るくするのは聖霊です(クリスチャンの奉仕 253: 日本文 369)。このお方はまた嘆き悲しむ者たちを(教会への証 3 巻 267)、生ける神の印をもって印することになっています。

実際の御使たちもちろん、14 万 4 千人の印する働きに参加しています(ヘブル 1:13, 14; 国と指導者下巻 196)。そして、献身した人間もまた、この最終的な働きにおいて、自分の役割を持っています。

「御使たちは、中空を飛びながら、世界に警告のメッセージを宣布し、この地上歴史の最後の日に生存している民に直接関わりのあるものとして表されている。だれもこれらの御使たちの声を聞くわけではない。なぜなら、彼らは全天と調和して働いている神の民を表す象徴だからである。神の御霊によって啓発され、真理によって聖化された男女は、その順番にしたがって三つのメッセージを宣布する。」(セクレット・メッセージ 2 巻 387)

同様に、もし「もう一人の御使のメッセージ」(エリ・ホフ 1888 年原稿)が拒まれたのであれば、それはそのメッセージを伝えた人を拒み、これらの人々に付き添っていた御使たちを拒んだという意味です。そしてまた、これらの人々をお用いになった聖霊を拒んだということです。ホワイト姉妹は次のように記しました。

「今、まさに今こそ、わたしたちの憐れみと救いの日である。主なる神、すなわち聖なる場所に住んでおられるお方は、ご自分の聖霊の表れに対する軽蔑を

示すすべての魂をご覧になっている。神は何度も繰り返し、バトル・クリークにおいて最も顕著な方法でご自身を表してこられた。ときには、予期しない方法でおとずれた。…ある人々はこの注ぎにいら立ちを感じ、彼ら自身の生来の気質が表された。彼らは、『これは興奮にすぎない。聖霊ではない、天からの後の雨の注ぎではない』と言った。」(特別な証シリーズ A, No. 6, p. 19 (1896 年))

「天来の使命者は、断固とした意志をもってはねつけられてきた。『ここまであなたは、わたしの生徒たちと共に来てもよいが、これ以上はできない。わたしたちの学校に熱心や興奮はいらない。わたしたちは自分たちで生徒たちに働きかけることにはるかにもっと満足している』。こうして神の恵み深い使命者、聖霊に対して侮辱が働かれてきた。

わたしたちの学校の教師たちは、冒涇の危険のうちに、すなわち神の聖霊を欺く力だと責めて狂信に導いていると告発する危険のうちにいないだろうか。…バトル・クリークで生ける水の雨が次々とあなたがたにおよんだ…しかし、あなたがたはそうには認識しなかった。聖霊の感化を通してこれほど惜しみなく提供された救いの流れから豊かに飲む代わりに、あなたは公衆の下水へと向かい、自分の渴いた魂を、人間の科学という汚れた水で満たそうと試みた。結果は、学校や教会における干上がった心であった。…しかし、わたしは教師たちがまだ心のかたくなさと思いの盲目に渡される境界線を越えていないようにと願う。」(特別な証シリーズ A, No. 7, p. 31, 32 (1897 年))

忠実なわずかな人々、すなわちそのときにメッセージを受け入れた人々は、教会を改革するには無力でした。それにもかかわらず、1888 年は預言されたりバイバルと改革の運動の始まりを画していました。それは他の危機の時、すなわち公の背教が大きな分離をもたらした時にさらに完全に表されました。

光に輝く松の木や杉の木、アカスギが、最も高い峰の頂上にまで届いています。

そして野原はどうでしょう。なんと美しいことでしょう!すべての花をさらんなさい!ありとあらゆる種類や色の花が、なんとたくさんあることでしょう!それは、田園地方の全体をおおいつくした生きたじゅうたんのように見えました。キンボウゲやひなぎく、ポピーやマリゴールド、ブルーベルにラッパすいせん、たちあおいやキンギョソウ、ゼラニウムやヒエンソウ、らんにベゴニア、バラにライラック。神さまは、どうやってこんなにたくさんお考えになったのでしょうか?そして、それらすべてをなんとすばらしく造られたことでしょう。それぞれ優美なデザインと、特別な色や香りがあるのです!

黒糖くるみ

■材料

くるみ	2 カップ
黒糖	半カップ
水	大さじ 2

■作り方

1. 水をフライパンに入れて、沸騰し始めたら、黒糖を入れて、スプーンなどでよくなじませます。
2. 完全に溶けたら、くるみを入れて黒糖が全体にまわるようにかきまぜながら、火を止めます。
3. フライパンについている黒糖がなるべくくるみにからまるまで、かき混ぜます。
4. 黒糖が、そのうち固まってきたら、器に移します。

黒糖の量は、お好みで変えてください。黒糖は温めれば砂糖自体でも溶けますので、水を入れすぎないこと、また黒糖は煮詰めないで火を止めるのがポイントです。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート1 第7話

世界の誕生日(Ⅰ)

それはまだ創造の週の第三日目の早朝でした。大地震がありました。地が神秘的に大洋から上ってきました。あらゆる大きさや形の島々があらわれました。堂々(どうどう)とした山々、起伏(きふく)のゆるやかな丘、また美しい海岸が、海しかなかったところに見られるようになるのでした。

しかし、何か問題がありました。地は貴金属があちこちにまだらに輝いている以外は、暗く不毛(ふもう)に見えました。どこにも木も灌木(かんぼく)も草の芽もありませんでした。たしかに神さまはだれもこのような場所で暮らすようにとは計画しておられませんね。

ちょっと待ってください。判断するのは早すぎます。

聞いてごらん下さい! 神がもう一度語っておられます。「光あれ」と言われたのと同じおどろくべきみ声が、今、新たにご命令になります、「地は青草と、種をもつ草と、種類にしたがって種のある実を結ぶ果樹とを地の上にはえさせよ」。

すると、どうでしょう。なんという変わりようでしょうか! それらの丘をごらん下さい! それらはもはや不毛ではありませんでした。生き生きとした緑へと変わっていました。はしからはしへ、それは草や灌木や木でおおわれています。山々を見てごらん下さい! 栄

